



牧野博士をモデルにした朝ドラ放映決定

2022年2月2日、うれしいニュースが飛び込んできました。2023年度前期のNHK連続テレビ小説で、牧野富太郎博士をモデルとしたドラマ「らんまん」が放送されることが決まったのです。主演は神木隆之介さんです。

このお話は降って湧いたわけではなく、2018年に発足した『朝ドラに牧野富太郎を』の会』の皆さんによる全国的な署名運動の結果です。会の皆さんの地道な活動が実を結びました。当館も署名運動に協力し、宣伝用のチラシと署名用紙を館内に設置させていただきました。



今年は博士の生誕160年にあたります。横倉山にも、博士の足跡を求めて多くの方が来られると思います。今の横倉山に博士が見た景色は、どのくらい残っているのでしょうか？ 広範囲にみられるスギやヒノキの植林は、



おそらく知らない景色でしょう。一方で、安徳天皇陵墓参考地のまわりのアカガシ林、杉原神社の境内や横倉宮、馬鹿だめしの周辺はあまり変わっていないかもしれません。そして、横倉宮のそばに今も生えているヨコグラノキは、博士がこの植物の名前をつける際に基準とした個体です。きっと多くの方が、この木を訪ねて横倉山にやってくると思います。

横倉山自然の森博物館では、博士が愛した植物が多く見つかった横倉山の環境を守りながら、後世に伝えてゆく活動を様々な方と協力しながら進めていこうと考えています。

(やちもりしゅうじ／横倉山自然の森博物館学芸員)

横倉山における昆虫類調査

辻 雄介

株式会社 相愛（高知県高知市）で昆虫を中心に生物調査業務等を担当している辻 雄介と申します。横倉山の周辺地域で行われている「横倉山生物総合調査事業」（本誌 Vol.43 参照）で、昆虫類担当の末席として2020年6月からメンバーに加わりました。本事業では、どちらかと言うと愛好家の少ない、マイナー寄りのグループを中心に調べさせてもらっています。ここでは、私が行った昆虫類（昆虫綱およびザトウムシ目）調査について、実施した主な採集方法と調査結果の概要について紹介させていただきます。

○採集方法

・目視採集（図1 a）

実際に目で見たものを捕まえるシンプルな採集方法です。第3駐車場～横倉宮の間で5回ほど行いました。捕虫網や灯火採集を使わない私にとってメインの採集スタイルで、狙いはアリ科やザトウムシ目です。効率はあまり良くないですが、その分、対象をじっくり観察することができるので、自然下での生態的知見が得られる等の利点もあります。

・篩採集（図1 b）

林内の地表部に堆積した落枝落葉層（Ao層）を篩い、地中に生息する昆虫類を採集する方法です。普段はシフターという道具を使用することが多いですが、100円ショップで購入できる園芸用のザルを使うこともあります。まだ2地点しか実施できていませんが、主にアリ科やゾウムシ科を狙っています。

・FIT（図1 c）

FIT（Flight Interception Trap）と呼ばれる昆虫採集用のトラップを横倉山の各所に設置しました。このトラップは空中を移動している昆虫等が対象で、飛行中の昆虫が障害物に当たると下に落ちるという習性を利用したものです。十分な量の虫が採れるまで時間が掛かりますが、一般的な調査で得難い種が採れるため、長期間にわたって調査を行う場合によく用いられます。本調査では主にタマキノコムシ科を狙って仕掛けました。

・洞窟（図1 d）

採集方法とはジャンルが異なりますが、洞窟内でも調査を行いました。調査した洞窟は平家穴、星ヶ滝洞穴です。横倉山の固有種であるヨコクラメクラチビゴミムシ *Yamautidius eos* S. Ueno, 1982（高知県RDB2018: 準絶滅危惧種）と思われる幼虫を確認することができました。

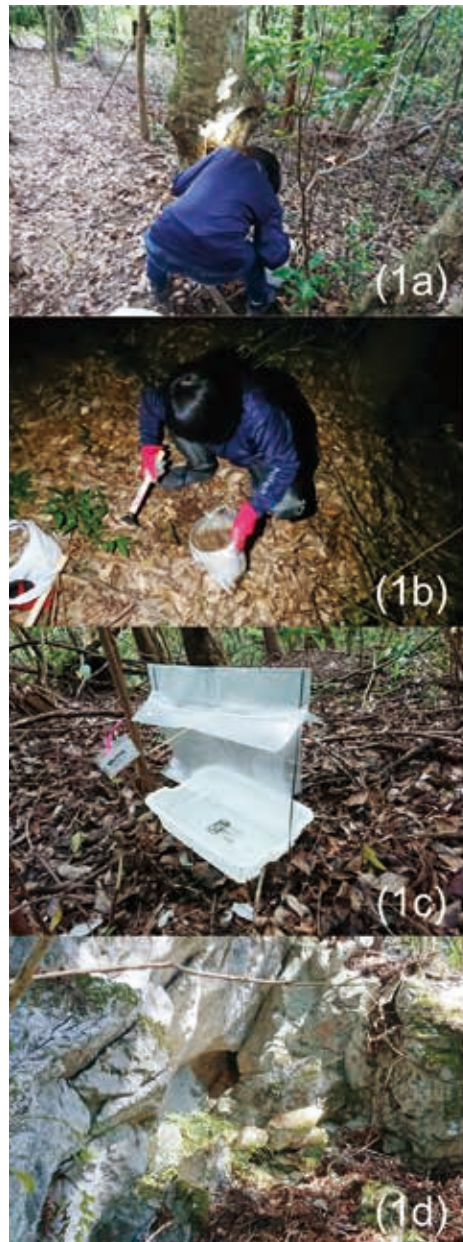


図1. 採集方法.

(a) 樹洞内に潜む昆虫を目視で採集する様子.

(b) 100円ショップで購入したフルイで篩採集の様子.

(c) FITの設置状況.

(d) 星ヶ滝洞窟の入口.

○ 2021 年までの調査結果

2020 年6月から 2021 年9月における主な調査地点を図2に示します。調査地点は横倉山第3駐車場から横倉宮周辺までの区間に集中しています。この範囲は標高が比較的高く（600～800m 程）、林縁および林内環境（落葉広葉樹林とスギ植林がモザイク状に分布する混交林）が大部分を占めています。



図2. 主な調査地点位置図.

本稿執筆時点でサンプルの同定が概ね終了しているのは4つのグループで、タマキノコムシ科 [昆虫綱:コウチュウ目] (図3a) を 36 種、土壌性ゾウムシ科 [昆虫綱:コウチュウ目] (図3b) を2種、アリ科 [昆虫綱:ハチ目] (図3c) を 23 種、ザトウムシ目 [クモ綱] (図3d) を6種、確認できました。詳細については別の機会に紹介できればと思います。調査努力は十分でなく、多くの未確認種が横倉山に分布しているはずです。

なお、タマキノコムシ科では「高知県レッドデータブック 2018 動物編」に掲載されている重要種、四国地方から初めての記録となる種、横倉山のみで採集されている（可能性がある）未記載種（下図3a）などが得られており、現時点でも一定の成果は挙がっています。また、私の対象としている分類群では、そもそも横倉山での分布に関する知見がほとんど蓄積されていないため（私の知る限り）、当地域の昆虫相解明に寄与するデータは取得できているものと考えています。

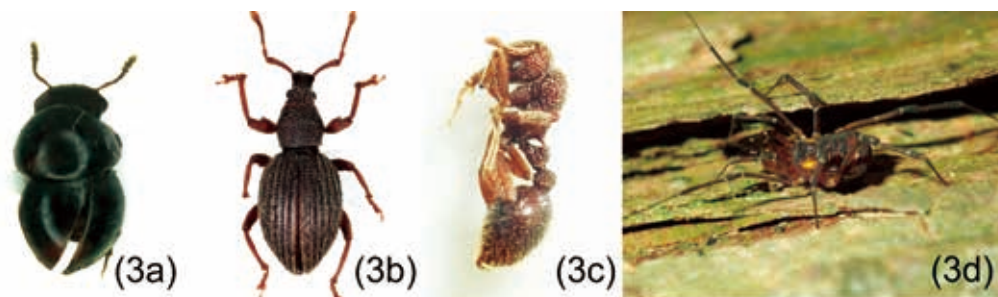


図3. 同定が概ね終了したグループ.

(a) マルタマキノコムシ属の一種 *Agathidium* sp.. (b) ツヤツチゾウムシ *Asphalmus japonicus* Sharp, 1896.

(c) ミゾガシラアリ *Lordomyrma azumai* (Santschi 1941). (d) ニホンアカザトウムシ *Pseudobiantes japonicus* Hirst, 1911.

○ 今後について

現時点で着手しているグループの調査精度を上げていくこと、カバー範囲を広げて調査対象種を増やしていくことを考えています。また、裸地や草地環境のある宮の前公園、坂折川などの河川敷、低標高地帯等の多様な環境タイプで網羅的に調査を行い、内容を充実させていければと考えています。若輩者ですので、諸先輩方のご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。一緒に調査をしていただけの方、サンプルをご提供いただける方も募集中です。

末筆になりますが、本調査にあたって次の方々にお世話になりました。現地調査やサンプル提供で近藤英文さま、芹田凌平さま、辻 春香さま、別府隆守さま。種同定や文献収集で鈴木 茂さま、瀬島翔馬さま、藤谷美文さま。厚くお礼を申し上げます。

(つじ ゆうすけ/株式会社相愛)

令和3年度学芸員実習を終えて

谷地森 秀二

博物館で働く学芸員の資格を得るために必要な学芸員実習、当館では令和3年度に高知大学から6名の実習生を受け入れました。実習は、2021年9月～11月の間に、各自が参加できる5日間で実施しました。以下に、実習生の感想を紹介します。

岩佐 廉（農林海洋科学部4回生）

今回の学芸員実習では展示製作が最も印象に残っています。今回は小学校3年生が読める展示を目指しましたが、読める漢字や熟語、どのような内容なら読んでもらえるか、どのようなレイアウトなら興味を引けるのかとても悩みました。ヌートリアという中型哺乳類を用いた展示を作りましたが、展示ケースという限られた空間ではく製の位置や解説パネルの位置を調節するのはとても難しかったです。実際に展示してみると自身の展示の問題点や他の実習生の展示との相違点が明確にわかり、作り直したいとも考えました。しかしそれと同時に実際の博物館展示はこのような経験の積み重ねによって出来ているのだと考えるととても感慨深く



哺乳類の展示製作

なると同時に学芸員に対する尊敬の念が強くなりました。今回の実習を通し、楽しい面だけではなく地道で大変な面も学び、学芸員という職業の重要性を再度確認することができました。今回の学びを活かし、良い学芸員になれるように励みます。

黒澤悠輝（農林海洋科学部4回生）

横倉山自然の森博物館での学芸員実習に参加させていただきました。5日間の実習にて、骨格標本作製のための中型哺乳類の解剖や、展示資料の整理、来館者の動向調査や展示の作製など多岐にわたる業務を体験させていただき、学芸員には様々なスキルを求められるということを実感しました。また、収蔵庫の見学や標本箱作りでは、はく製の保管に布団の圧縮袋を用いることや、骨標本を保管する箱は自作していることなど、限られた予算の中でいかにして貴重な収蔵品を保管していくかという学芸員さんの工夫と苦勞の一端を知ることができました。本実習を通して、座学だけで

は学べない、現役の学芸員さんだからこそのお話や、町立の博物館だからこそできることや問題点など多くの貴重なお話を伺うことができ、とても勉強になりました。今回の実習で学んだことや体験したことを、今後の様々な場面で活かしていきたいと思います。最後になりますが、今回実習を受け入れていただき、ご指導して下さった谷地森先生を始め、横倉山自然の森博物館の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



企画展チラシの発送作業

澤村桃子（農林海洋科学部4回生）

本実習では、横倉山博物館で行われている様々な博物館業務を体験させていただくことができました。1日目の実習は土佐塾高校での出前授業のお手伝いでした。内容は、中型哺乳動物を解剖し、サンプルを回収、除肉をして骨格標本にするというものでした。動物の身体の構造を学びながら、計測・標本作製の手法、受入票や標本ラベルの書き方を学びました。本来、標本作製の過程は来館者には見せない部分だと思います。それをあえて体験してもらうことで日常では得られない学びを提供すると同時に、博物館の役割や意義を知ってもらう重要な活動だと感じました。その他にも、標本箱製作、骨格標本への登録番号記入、来館者の動向調査など様々な博物館業務を体験



展示解説パネルの作製

させていただきました。今回博物館実習をご担当くださった谷地森先生には、懇切なご指導と大変貴重なお話を伺うことができました。博物館の役割や意義、現状を知る貴重な機会になったのは勿論、博物館に携わる活動がしたいと強く感じました。本当にありがとうございました。

清水さつき（農林海洋科学部4回生）

5日間の学芸員実習を通して貴重な体験をすることができました。標本作製のための解剖や骨片へのナンバリング、骨片を入れるための箱作り、広報活動のためのチラシ折り、展示物の登録ナンバーの確認や来館者の動向調査など様々な業務をさせていただきました。これら中で最も印象に残った業務は標本作製のために行ったタヌキの解剖です。高校生と一緒に子どものタヌキの解剖を行いました。博物館で何度も標本の姿になっているタヌキをみたことがありましたが、実際に自分の手で解剖することは初めてでした。正直なところ解剖中に漂ってくるタヌキの臭いに何度か逃げたくなりました。しかし、解剖を進めていく中で少しずつ臭いよりも体の部位や構造に関心を持ちました。自然を扱う博物館ではこのような自分自身で触れる業務を多く行うことで、展示物により深い理解を得られることが分かりました。本実習で、学芸員は専門性

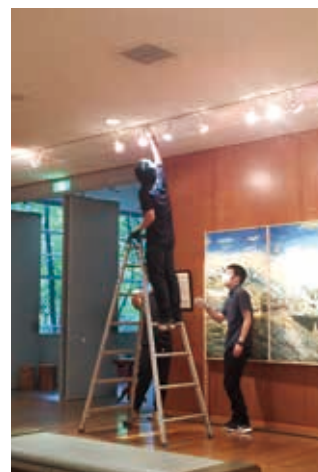


展示資料の情報確認

高橋朋之（農林海洋科学部4回生）

今回私は、横倉山自然の森博物館で5日間の学芸員実習を受けさせていただきました。実習内容は、解剖を伴う標本の作製や展示における子供の動向調査、展示の作製など様々でした。本実習で特に印象に残ったのは、企画展である「野並允温個展」の絵画に当てる照明の位置の調整です。私ははじめ、ただ絵画が明るく照らされればいいと考え位置を調節しました。しかし、その後谷地森先生からただ絵画を明るく照らすので

はなく、来館者が絵画を観ている時に来館者の影で絵画が観にくくなる位置にするようにとご指摘を受けました。これを聞いたときに私は、博物館は来館者がいなければ存続はできないため、学芸員は常に来館者のことを考えて作業する必要があるのだと強く感じました。最後になりましたが、実習を受け入れていただき、またご指導ご鞭撻いただき本当にありがとうございました。今回の実習で学んだことは今後の活動に活かしていきたいと思っています。



企画展会場のライティング

吉田裕貴（社会人）

私は、今年の春より、高知県内で中学校の教員をしています。今回の実習は、実習生としての学びを得るだけでなく、教員としての今の仕事にも活かしたいと考えて参加させていただきました。今回の実習では、博物館の従業員さんが実際に学校に行き、哺乳動物を解剖する授業に参加させていただきました。子どもたちは本当に真剣で、とても一生懸命でした。普段の学校では難しい内容でも、博物館施設と連携することで、この授業のように深い学びを提供することができるのではないかと考えます。私は、この実習を通して、博物館施設と学校現場をつなげるような人材になりたいと感じました。私は、子どもたちが更にたくさんの興味を持ち、より深く学ぶことができるよう、これからも学びを深め、より良い教育を提供できるよう精進いたします。最後になりましたが、谷地森秀二先生、横倉山自然の森博物館の関係者のみなさま、たくさんの貴重な機会をいただき、また熱心にご指導くださり、本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。



中型哺乳類の標本作製

（やちもしゅうじ／横倉山自然の森博物館学芸員）

博物館行事

企画展

「越知小中学校学習発表」

2021年12月18日(土)～2022年1月30日(日)

入場者数 828人

越知小学校及び中学校は、2021年度も「ふるさと越知」を見つめながら、たくさんの体験活動を行い、学びを深めてきました。児童生徒たちが学習を通じて学んだことや感じたことを、越知町内外の多くみなさまに見ていただきたいと考え、博物館を会場に企画展として紹介しました。



「つなげ! 高知の少ない生きものたち～牧野植物園巡回展～」

2022年3月5日(土)～5月15日(日)

2021年夏に牧野植物園で行われた企画展を、横倉山自然の森博物館で巡回展として開催しています。本展では、高知県でどんな生きものが絶滅危惧種になっているのか、どうしたら守れるのかを紹介し、高知県版レッドデータブックをつくる意味についても解説しています。



自然観察会 横倉山の生きもの調べ

「横倉山の樹木」

11月28日(日)〔講師:石川慎吾(高知大学名誉教授)、参加者:13名〕

第3駐車場から杉原神社までの登山道で樹木についての観察会を行いました。講師は高知大学名

誉教授の石川慎吾先生にお願いし、横倉山の地形や地質が植生にどのような特徴をもたらしているのかについてご説明いただきました。その後、登山道を歩きながら、樹木について、見分け方や生態などについてのお話を伺いました。参加者は、巨大なアカガシやモミ、樹齢500年以上のスギなどをじっくりと観察されていました。



「冬の鳥たち」

1月16日(日)〔講師:谷地森秀二(横倉山自然の森博物館学芸員)、参加者:12名〕

博物館のまわりと宮の前公園で、野鳥の観察をしました。はじめに博物館で用意した双眼鏡の使い方と鳥の探し方をお話して、あわせて観察するときの注意点なども紹介しました。宮の前公園をゆっくりと歩きながら、梢にとまったヒヨドリや、地上から飛び立つモズ、駐車場を歩いているセグロセキレイなどを観察することができました。また、仁淀川では小鳥たちの混群(メジロ、ウグイス、シジュウカラ、エナガなど)に出会うこともできました。参加した方々からは、「身近にこんなに多くの種類がいるんだ」などの声が聞かれました。



「水生昆虫」

3月20日(日)〔講師:石川妙子(水生昆虫研究家・横倉山自然の森博物館友の会会員)、参加者:15名〕

仁淀川の支流、坂折川で水生昆虫の観察をしました。参加者は川に入り、石のうらにいるトビケラやカワゲラなどの幼虫を捕まえてルーペ、顕微鏡を使って観察していました。見つかった生きものについて講師の石川さんから生態や見分け方、川の水質との関係などについてご説明いただきました。



友の会だより

研修会「みんなでつくる横倉キッズパネル」

横倉山自然の森博物館は1997年10月開館以来、地域博物館として情報を収集・発信していますが、展示パネルと資料ラベルの文章は中高生以上を主な対象として作られているため、遠足などで来館した幼児や児童の中には展示内容の理解ができない様子が見受けられます。そこで子どもにもわかりやすく伝えられるツール（キッズパネル・子ども向けワークシート）を開発する研修会を行いました。講師には、NPO 法人大阪自然史センターの西澤真樹子さんをお迎えしました。



研修会は11月29～30日にかけて博物館3階の展望ロビーで開催しました。参加者からは、現在の展示は「展示パネルの文字が小さい」、「漢字にフリガナがない」、「展示している標本の高さが子どもの目線にあっていない場所がある」などの意見が寄せられました。これらの課題について、他の博物館ではどのような対策が行われているのかについて講師の西澤さんから事例の紹介がありました。参加者は、その内容を基にして、具体的なツールの開発を目指しました。



相談の結果、常設展示の3コーナー（アカガシ原生林の不思議、横倉山のおいたち、地球の歴史）を対象にして、キッズパネルを配置してみようということになりました。その内容については、現状の展示で課題となっていたことを解決することを念頭に、イラストを多く用いたり、文字を大きくしたりという工夫を盛り込むように努めました。パネル内容の監修には佐川地質館の学芸員、森 浩嗣さんにもお願いして、正しい内容となることを目指しました。

目指せ!! アカガシの森マスター

Q 動物をさがせ!

この中には20種類(動物4種類・鳥6種類・昆虫11種類)がかかれているよ。見つけられるかな?

ヒント シルエットをヒントにしてね

地球の生きもの年表

★ワークは 横倉山で実った生きもの!

ふしぎなもようをみつけよう!

の紙にこたえを
かいてね。

ヒント
この部屋の石の中に
かかれているよ。

2022年1月下旬、キッズパネルが完成し展示室に設置されました。現在、キッズパネルを設置したことで、来館者が展示室を巡る動きに変化が生じたか、来館者に博物館からの情報が十分伝わっているかを把握するための調査を進めています。ぜひ見に来て下さい。

※この活動は、令和3年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金を受けて、実施しました。

よその博物館見学「佐川地質館」

2022年3月13日(日)〔参加者:5名〕

当館とオフィシャルパートナー協定を結んでいる佐川町立佐川地質館を訪問し、学芸員の森 浩嗣さんの案内を受けました。佐川地質館と横倉山自然の森博物館は両館ともに地質と化石を対象としていますが、当館とは雰囲気が違う様子に参加者の皆さんは興味津々で、たくさんの質問をしていました。



(やちもしゅうじ／横倉山自然の森博物館友の会会員)

横倉山ミニ歳時記

■横倉山のニホンザル

ニホンザルは旬の食べ物が好きで、季節のおいしい食べ物を探しながら群れで生活をしています。越知町にもニホンザルが生息することが知られていますが、横倉山周辺ではどのあたりに生息しているのかあまり知られていません。そこで自動撮影装置を使った調査を2021年3月から行なっています。調査の結果、越知町内では野老山周辺でオスのニホンザルが撮影されました。ニホンザルは群れで生活をしますが、オスは大人になると新しい出会いを求め生まれた群れを旅立ちます。今回撮影されたニホンザルも、新しい出会いを求めて旅立った個体だったのかもしれませんが。野老山以外では加枝や長者で、親子のニホンザルが撮影されました。残念ながら食事の風景を撮影することはできませんでしたが、設置したカメラのそばにはニホンザルが食べたミカンの皮がたくさん落ちていました。ニホンザルは指を使って上手にミカンの皮をむくことができます。人間がむいたようなミカンの皮がたくさん落ちていたら、ニホンザルの仕業かもしれません。



(てらやまかな／横倉山自然の森博物館友の会会員)

《《2022年度上半期行事予定》》

【博物館】

企画展

- 3月5日(土)～5月15日(日)
つなげ！高知の少ない生きものたち
～牧野植物園巡回展～
- 7月23日(土)～11月27日(日)
牧野富太郎展～博士の横顔～〔牧野植物園巡回展〕

自然観察会「横倉山の生きもの調べ」

- 4月17日(日) 横倉山の春の草花
- 5月1日(日) 横倉山の絶滅危惧種を守る取り組み
- 5月8日(日) ヨコグラツクバネ
- 5月15日(日) 夏の鳥たち
- 5月28日(土) カエルの夕べ
- 6月19日(日) ヨコグラノキ
- 7月17日(日) 坂折川の魚
- 8月21日(日) 土の中の虫たち
- 8月28日(日) コオロギラン
- 9月18日(日) ムササビとコウモリの夕べ

講座「博物館教室(四国の自然・横倉山の自然)」

- 4月3日(日) 四国のツキノワグマのいま
- 4月29日(金・祝) 巡回展関連イベント講演会
「横倉山でみられる絶滅危惧種」
- 6月5日(日) ホタルの季節がやってきた
- 7月3日(日) 四国のカエル・横倉山のカエル
- 8月7日(日) おうちでできるトリのハクセイづくり
- 9月4日(日) 横倉山にすむリスのなかま

※新型コロナウイルス感染状況によっては、中止の場合があります。

【博物館友の会『フォレスト・クラブ』】

- よその博物館見学会
5月22日(日) カルスト学習館
- 仁淀川勉強会
6月4日(土) 仁淀川水質調査
- 横倉山勉強会
6月26日(日) ヒメボタル観察会
- おちぞら★星空観察会
8月27日(土) 夏の星観察会
- 研修会
9月10日(土)～11日(日) 視察研修1泊2日

友の会『フォレストクラブ』に入会しませんか？

フォレストクラブとは、横倉山自然の森博物館の展示や教育活動を通じて、横倉山の自然史に関する知識や関心を高め、メンバー相互の親睦をはかる会です。みなさんも行事イベントを通して、仲間と一緒に学びながら交流しませんか？

年会費や特典などお問い合わせは友の会事務局へ
友の会事務局(博物館内) 0889-26-1060

高知県越知町立

横倉山
自然の森博物館



THE YOKOGURAYAMA
NATURAL FOREST
MUSEUM, Ochi

〒781-1303 高知県高岡郡越知町越知丙737番地12
TEL0889(26)1060 FAX0889(26)0620
<http://www.town.ochi.lg.jp/>

- 開館時間：午前9時より午後5時まで
最終入館は午後4時30分
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
12月29日から翌年の1月3日まで
- 入館料：大人……………500円(※各20名以上)
高校・大学生……………400円(上の団体は100円引き)
小・中学生……………200円
- 越知への交通
高知——JR特急 約30分——佐川——バス 約15分——越知
JR普通 約50分

